

月刊 島民

中之島

Vol.3 2008 10/1

橋を渡る人の「街事情」マガジン

いつの間

にか、

駅

前

だらけ。

快速急行 000 中之島

EKEIHAN
3051

祝・京阪電車 中之島線開業!

トンネルを抜けるとそこは…

駅前だらけだった

去る7月26日、京阪電車 中之島線トンネルウォークが行われた。間近に開業を控える新線の線路を歩くもので、なんと参加希望者は定員の10倍以上だった。最近の鉄道ブームもあってのことなのか、親子連れやカップル、年配の夫婦など、年齢や性別の入り交じる参加者の顔ぶれに、思わず島民編集部はこの新線の「愛され具合」を感じずにはいられないものであった。

その京阪電車 中之島線の開業は10月19日。あと3週間足らずとなった。あなたの会社の目の前や、お得意先のすぐ近くが、気づけば「駅前」になるのだ。この先、島はどのように変わるのか？まずは駅前の顔ぶれから見ていく。



ここで働くようになりスタッフと話していく、あらためて実感したのですが、中之島って、こんな都会の真ん中でありますから、両側に川が流れ、緑が豊かで、一帯がNYのセントラルパークみたいな公園なんですね。一般的にはビジネス街のイメージが強いですが、中之島線の開業によって、当館をはじめ、東洋陶磁美術館や図書館など、文化・芸術エリアへ向かう新たな一本の道筋ができるのが嬉しいです。

当館は今秋で開館90周年を迎える国的重要文化財ですが、会議やコンサートなどの催しに貸し館としてお手頃な価格でご利用いただけます。駅を出れば目の前。大阪のシンボル、市民の想いのこもった歴史的建造物をぜひ見に来ていただきたいですね。

大阪市中央公会堂

10月から90周年記念の催しが自白押し。11月16日には子供向けクラシックコンサート、12月24日には館内ガイドツアーも(事前申し込み必要)。☎ 06-6208-2002

なにわ橋駅



新しい道筋ができるのが嬉しいですね。

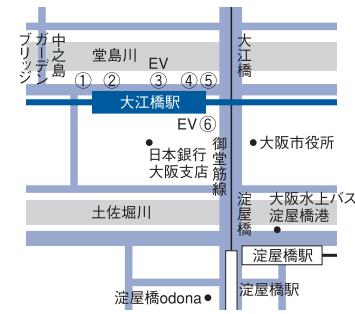
駅前島民

新しい駅ができるということは、すなわち「駅前」ができるということ。

都心部を走る路線だけあり、各駅ごとにその様子も変わる。
10月19日、晴れて「駅前島民」になる面々が、期待のほどを語った。

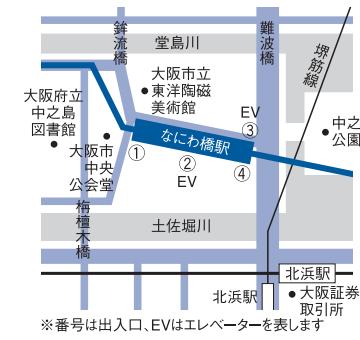
◎駅前予報

雨に濡れながら淀屋橋駅から市役所へ向かった道もなんのその、これからは徒歩1分でたどり着ける大江橋駅が正真正銘の「市役所前」となる。渡辺橋駅前とは違って同じオフィス街でも白シャツ人口がめっぽう多いのは、日本銀行大阪支店などがある官公庁街だからだろう。北新地方面へは1番出口が最も近い。



◎駅前予報

中之島公園にぐるりと囲まれたなにわ橋駅は、東にバラ園(現在は整備中で来年3月に開放予定)、西に赤煉瓦の中央公会堂、重要文化財の府立図書館など、カメラ小僧からベレー帽紳士まで、芸術好きのココロをくすぐる。と思えば器や盛りつけの参考にと東洋陶磁美術館に訪れる料理人もいたりするので、人間観察をするのも面白い。



大江橋駅



開業に立ち会うことができて、とても光栄に思います。

平松邦夫さん(59) 大阪市長

幼い頃から中之島図書館などにはよく遊びに来ていました。その度に市役所、日銀大阪支店などの素晴らしい建築や御堂筋を目の前にして、「大阪つてすごいなあ」と思ったものです。まさかその当時は市長になり、「島民」になるとは思いもよませんでしたが笑。

中之島線は私が市長になる前から進んでいた計画で、その開業に立ち会うことができて光榮です。大阪のビジネスの中心地であり、歴史や文化の深みを感じられる中之島は川で挟まれた特徴ある地形から水都大阪のシンボルになっています。ここを走る中之島線はいつも話題になる路線になることでしょう。「大阪にこんな素晴らしい場所があったのか」と喜んでもらうための戦力として大いに期待しています。

5年後も変わらず、
こちらで
お待ちしています。

**フェスティバルホール 支配人
西 部 宏志さん(47)**

古くから多くの文化施設が建ち並ぶ中之島に当ホールがあることは、各種公演でお客様をお迎えする者にとっても誇らしいことです。以前、公演をしていただいたフランスの著名な歌手の方は、ホールのすぐ近くの堂島川をご覧になって「まるでパリのセーヌ川のよう」とおっしゃっていました。

駅前になれば、お勤めの方や、京都などから来られる“島外”的方々にはもっと便利になりますね。ただ残念なことに、当ホールは今年いっぱいビルの建て替えのために一時閉館することになります。とはいっても、再オープンする際にも、渡辺橋を南に渡つすぐにあるこのメインエントランスの場所は変わらない予定です。2013年にまた、駅前でお待ちしております。

フェスティバルホール

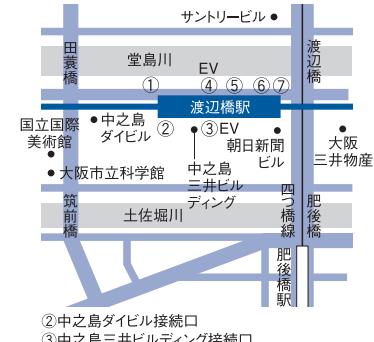
音響の精度は日本いや世界でも屈指。12月にはフィナーレを飾る公演が予定され、シユツットガルト・バレエ団はじめ、狂言やクラシックなどバラエティ豊かなものちらちらならでは。**06-6231-2221**



渡辺橋駅

◎駅前予報

朝日新聞ビル地下、ドージマ地下センター、堂島アバンザと地下街が最も発達しているのが渡辺橋駅。働く島民にとってお昼時には実にありがたい。なかでも【インデアンカレー】が駅から徒歩10分圏内の各地下街を制覇しており、3店舗で島民の胃袋をがっちり掴んでいる。サントリーと朝日新聞、ジュンク堂に行くにも地下街は重要だ。



駅前になるのに
勉強させて、
勉強しておきます。

リーガロイヤルホテル ドアマン 重富直也さん(34)

ドアマンと「言うと、タクシーなどのお迎えが多いイメージかもしれません、シャトルバスをはじめ、自転車や徒歩でいらっしゃる方もおられます。荷物の多さや歩くスピード、日線の方向で、どんな用事が分かることもありますよ。新しくできる中之島駅には、改札を出てすぐ目の前にホテルへ直結する入口ができます。駅前になればそこから歩いて来られる方を含め、さらに新しいお客様が増えることになるでしょうし、一番にご挨拶する身としてはやりがいを感じますね。先日の新聞でも、中之島線のダイヤについての記事を読みました。お客様にどんなことを聞かれてもすぐにお答えできるように準備しております。



リーガロイヤルホテル

大阪を代表することは70年以上前から島民の常識。レストランやカフェで中之島線開業にあわせた特別メニューをいただけるフェア(P17)も実施中。**06-6448-1121(大代表)**

◎駅前予報

国際会議場へ、リーガロイヤルホテルへ向かう人たちであふれる中之島駅は、同時に通訳やランチを楽しみに来たマダムたちの香りが漂う。「どこかで見たことのある顔」だと思ったらホテルのシェフやソムリエだったり、ドアマンだったり。のみならず庭師や筆耕など、縁の下の力持ちにすれ違うこともあるかも知れない。



中之島駅 (大阪国際会議場)

◎3分でわかる戦後車両史

1950年代 黎明期：モーターの装備方法に大変革があり、高速で乗り心地の良い車両が現れる。

1960年代 拡大期：人口増に伴いスピードから輸送力重視の時代へ。モーター車が少なくて済む大出力モーターが誕生。

1970年代 発展期：オイルショックの影響から、省エネ電車が誕生。通勤車には冷房車が導入される。

1980年代 安定期：居住性の良いインテリアや、外装もオシャレな車両が続々登場。

1990年代 煙熟期：インバータ制御の画期的な車両が登場。ハイテク化と軽合金化が進む。

2000年代 衰退期：コスト・重量・寿命が半分の各社共通規格による車両が登場。デザインの没個性化を招く。

若 撮影会はすごい数の報道陣でしたね。やっぱり注目度が違うというか。黒 今回は半世紀ぶりのフルモデルチェンジというビッグイベントですから。といつてもほとんどが鉄道系メディアですけどね。

若 僕は京阪沿線で生まれ育ったんで黒 いや、こういうことは知識として知っておく方がいいんですよ。書かなくとも原稿に「コク」が出来ますから。

若 ベ、勉強になります。つまり青色は「京阪も変わらなきや」という姿勢の象徴だと。

黒 私はこの新車両を見て「これは京阪本気だな!!」と思いましたね。まあ個人的には突っ込みどころも多いんですけどね。

若 昔からテレビとかダブルデッカーとか発想が自由ですもんね。

黒 日本初のATS（自動列車停止装置）や5ドア車両の導入、エアーサスペンションの試験は世界初など、さすがに「技術の京阪」と呼ばれているだけあって名車が多い。

若 なんですか？市街地を縫うよう走る路線が多くて「京阪カーブ式会社」なんて呼ばれていた時代から、阪急や国鉄といった競合路線と戦うために差別化していくのですが…（以下大幅に略）

黒 そう、青い車両は京阪にとっての改革なんですよ。市街地を縫うよう走る路線が多くて「京阪カーブ式会社」なんて呼ばれていた時代から、阪急や国鉄といった競合路線と戦うために差別化していくのですが…（以下大幅に略）

若 話がどんどん新車両からそれてますが…。



黒田さん曰く「手を尽くした感が出てますね」という内装デザイン。



伝統ある成田山のお守り。京阪電車の全車両に備わっている。



寝屋川車両基地での撮影会にメディア殺到。新車両にシャッターを切りまくるカメラマン。

鉄ちゃん

黒田一樹さん

経産大臣公認の中小企業診断士という肩書き

を凌駕するほどの鉄道好き。

知識・フットワーク・プレゼン力のすべてを備える愛好ぶり

は鉄ちゃんの鑑と言える。

TVチャンピオンの「東京地下鉄レジャー王選手権」にも挑戦するなど、

専門は地下路線。



鉄ちゃん&チ鉄ちゃん対談

島のニューヒーロー！ 3000系

島に突如現れたニューヒーロー「3000系」。

本格デビューの一足先に行われたお披露目撮影会に参加した、キャリア30年の鉄ちゃんと、編集部さっての鉄道好きが、新車両の魅力を大いに語った。

発想は見事！

*4 山手線の多扉車の20年前、電気容量の問題で増発が限界だった1970年に登場した。朝のラッシュ時以外は2扉を開め切り、座席を降ろすという

*3 テレビカーラーは1995年登場。大いに乗客効果を發揮した。今も8000系特急車「エレガントサルーン」でどちらも健在。

*1 「野江の七曲り」がとうの昔に解消された今も、八幡市や中島に停車中の電車の傾き方や大津線のスラロームにその名残を感じることができます。

*2 きちんと左右にヘッドマーク受けがあったり、ロングシートの背スリガ窓の下辺より高かったり、車両間が自動扉だったりと、マニアにはたまらない凝り方が随所に。

*3 テレビカーラーは1995年、2階建て車両のブルデッカーラーは1995年登場。大いに乗客効果を發揮した。今も8000系特急車「エレガントサルーン」でどちらも健在。

新線マニア



ついにやって来る中之島線。便利になることはもちろんだが、鉄道的にはどんな面白みがあるのだろうか？ ちょっとびり鉄道マニア目線のコラムで、新線を先取りしよう。

講師／黒田一樹

【1時間目】地下路線は、時代を映す鏡である。

木材を使つたことで話題の中之島駅をはじめ、金属材を使つた渡辺橋駅、石をモチーフとする大江橋駅、レンガ調のなにわ橋駅。地域の個性が反映された中之島線の各駅では、地中に作られた「建築美」を楽しめる。バリアフリーへの配慮の結果、だんだんになつた階段の手すりが美しい。また、かつてならコンクリートで造形されていたような場所も吹き抜けやガラスが用いられ、そのガラスにもグラデーションのある色づけを施すなど、ゆつたりとした開放感のある演出は、機能一辺倒ではなく快適さや個性も重視する21世紀の地下駅

のトレンドだ。

さらに、不燃性が絶対条件である地下駅では、木材など到底使えなか

中之島駅の壁面は一面、木材がびっしり。他の各駅も出入口などにモチーフとなる素材が見られる。

あつたことが伺える。このように地下（鉄）の駅は、技術面においても意匠面においても、強く時代を反映する。まず最新技術は掘削・建設を合理化する。また地下とは100%の人工空間だからこそ、意匠面における「デザイントレンド」がモロに表れる。地下こそはART（＝技術・人造物・対義語はNATURE）のチカラが如実に顕れる空間なのだ。

さらに、地下鉄はごく日常的ながらも、都市が威信を賭けてつくり上げた、象徴的な装置である。京阪電車は厳密には「地下鉄」ではないが、それでもなるほど45年前に開業した天溝橋・北浜・淀屋橋の各駅では、重厚な柱や床タイルの素材・意匠などが漂つ「地層」さながらである。



これまた最新トレンドであるガラスやステンレスを使った中之島駅の階段。手すりも人間工学に基づいたデザイン。

に開業した京都は七条以北の地下駅も「路線で統一感を出してつ駅を色で判別する」という当時の流行を反映する。歩いてみると、その時代の空気が感じられる



なにわ橋駅の構内。解放感のある吹き抜けはインパクト大。これぞ21世紀型の地下駅だ。

また、約20年前

大阪本社のオフィス街である中之島。

いま、新線の開業を歓迎しながらも、生まれ変わった建築物の向こうにアイデンティティを模索する島民の姿が見えるかのようだ。でも大丈夫。新たなる地下駅は、想いを木の香りに乗せ、21世紀初頭の「時代」を語り継ぐだろう：20年後も、45年後も。



GKがプレゼンに提出したデザイン。右上はシートの素材「エクセーヌ」を表すタグ。

久性も含めて、これしかないと思って…」。2年前を振り返って、東が笑う。

10月19日。男たちの熱い想いを乗せ、京阪の新しい「カタチ」クールなブルーが島を駆ける。

その1 新車両3000系、衝撃のブルーカラー。 GKデザイン／GK-DSH

風 流の今様ー。中之島を走る新車両3000系は、そのコンセプトに沿って動き出した。提示したのは「GKデザイン／GK-DSH」。京阪駅内のサインや店を手掛けているが、車両は初めてだった。「車両は沿線の風景であり、シンボル。京阪のイメージを踏まえつつ、古都と水都を結ぶ新線の象徴にしたい」。GKの唐澤龍児と佐藤伸矢はプレゼンで熱っぽく語った。

「風流」の表現には「花鳥風月」を据えた。花は、季節やイベントごとの副標や車体のラッピング。鳥は、白鳩のヘッドマーク。風は、電車が走る姿そのもの。だが、月が、なかった。「そこで月を表す円弧を各所に取り入れました。車両のフェイス（先頭）、

シートや手すり、窓の日よけまで」。若手の鈴木スバルが解説する。

車体は、ブルー。京阪カラーといえば緑のツートーンや特急の赤と黄だが、水の都には、青以外考えられなかった。衝撃が京阪社内を走り、続いて歓喜の声が上がった。

気品と高級感を印象づける最後の決定打は、京阪電車車両課の東啓一のこだわりが生んだ。

「シートには高級車のような素材を採用したい」。車好きの東は、スエードのような手触りの人工皮革に目を留め、知人のツテを頼りに、開発した「東レ」に乗り込んだ。

大阪本社はくしくも、中之島にあった。「エンジニアが直接来たのは初めてだって驚かれましたよ（笑）。でも、手触りも耐



プロジェクト
～中之島線にかけた男たち～

なぜ新駅名には「橋」がつくのか？

【2時限目】

b ridgeには「つなぐ」という動詞の意味もある。「橋渡し」だ。先代の京阪電車のスローガン「街をつなぐ、心をむすぶ」をご記憶の方も多いだろう（現在は「ここらまちつくろう」）。

実際、中之島線はじめ京阪電車には「橋」のつく駅が驚くほど多い。新駅である渡辺橋、なにわ橋、大江橋。そして天満橋、京橋、淀屋橋はもちろん、古川橋、橋本、丹波橋のほか、宇治も「橋」を思わせる。また、八幡市—淀間の大鉄橋は、車窓のハイライトだ。

これらは、蛇行する川沿いの宿場を縫つて京都と大阪を結ぶという京

阪電車100年來のコンセプトを考えると、当然と言えば当然の帰結と言えよう。

堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島もまた、23本の橋で対岸と結ばれている。もし中之島に一本の橋も架かっていなかつたら、島民は渡し船にでも頼るしかない（それはそれで楽しそうだけだ）。兵糧攻めでもされようものならアウトである。まさ

に橋こそは、中之島の生命線なのだ。そして驚くなれ、これらの23本の橋はすべて南北に架かっており、東西を結ぶ橋は一本たりとてなかつたのである。大阪の心臓部であるにもかからず、である。

阪電車で中之島と城東エリアや京都がbridgeされようとしているではないか。そう、京阪電車そのものが「橋」なのだ。だとしたら、京阪電車に「橋」のつく駅名が多いのは、もしかしたらものすごくコンセプチュアルなことなのでないだろうか。



日本初「深夜急行」が登場！

【3時限目】

中之島線開業に伴うダイヤの大改正こそ、実は京阪電車ヘビーユーザーにとっては一番のニュースだろう。従来は種別数が少ない方がわかりやすいという考え方のもと、K特急・特急・急行・準急・区間急行・普通の6種別があり、時間帯によって停車駅が変わっていた。それが今回の改正では、種別と停車駅が一致した方がわかりやすいと方針転換。中之島線は快速急行・区間急行、京阪本線は特急・準急・普通の5種が中心

になるが、時間帯により中之島線に通勤快急、淀屋橋始発の電車には快速特急・急行・通勤準急、深夜急行が登場。その数は一気に日本でも屈指の10種類に！ 「全種類写真に収める！」と息巻くマニアも多いが、筆者のおすすめは今や希少になりつつある夜行列車や沢木耕太郎の気分を味わえるかもしれない「深夜急行」（稽古行きだけ）。沿線外の人は、イメージーションを胸に京橋あたりまでどうぞ。



開業と共にスタートする新ダイヤをPRするポスターにも3000系が。さすがヒーロー！



その2 水よ止まれ！ 地下35メートルの闘い。

京阪電車 中之島新線建設部 工事担当
喜多一仁さん

2 本の川に挟まれたわずか300m幅の中洲。その川のすぐそばに通す地下路線。一部区間では市営地下鉄が交差する。中之島線の工事は、厄介な条件が揃っていた。

「大阪の都心部はもともと地下水位が高く、3mも掘れば水が出る。水を防ぎながら、いかに安全に工事を進めるか。それが最大の課題でした」。京阪電車の工事担当係長、喜多一仁は振り返る。駅や線路に着手する前に、遮水のための「土留壁」を埋め込まねばならなかった。いくつかの工法

が実際に現場で試され、深さ40~80mの壁は築かれた。

しかし、土留壁完成後も水との闘いは続く。「駅の躯体を地中に造る時、地下水の浮力で浮いてくることがあるんです」。新設の4駅のうち、最も深い「なにわ橋」駅は地下35m。少しでもすき間があれば水はどっと入ってくる。ところが、地盤沈下の苦い過去がある大阪では、地下水の汲み上げは許されていない。作業員たちは細心の注意を払って掘り進み、駅の構造を完成させた。

駅間を結ぶトンネルを掘る作業には「シールドマシン」が登場した。直径6.95m。京阪では初採用となった“巨大なモグラ”は、地中を行き来し、時々、予期せぬ異物に行き当たった。「なぜこんな深くに？」という所から鉄板や鉄屑が出てきたんです。どうやら昭和初期に地下鉄御堂筋線を造った時の土留壁の残骸のようでした。当時は国内に鋼矢板がなくドイツから輸入して工事をしたようです」。

水都を貫いた難工事は、知られざる「大阪」の歴史をも掘り当てたのだった。



落書きやペンキの汚れ、傷は消せるのか。実際に木片を使って実験を繰り返し、実証した。

その3 「木の駅」をつくる。 中之島モデルへの挑戦。

京阪電車 中之島新線建設部 建築担当
三好正人さん

中之島の企業や働く人々は独特の雰囲気をもっている、と建築担当係長、三好正人はいう。『中之島俱楽部』ともいいくべき、そのイメージを活かしつつ、各駅ごとの特徴を出したかった。新線への玄関となる駅の内装は、そんな方針のもとに進められた。

旧き良き中之島の香りと未来に向けた想いを表すため、選んだ建材が「木」だった。不燃加工を施したカナダ産のレッドシダー(ヒノキの一種)。金属壁やタイル張りが主流となっている最近の駅で、しかも、地下

路線で木材を使う例は、おそらく見当たらない。「傷の補修はどうする」「落書きは消せるのか」。社内で上がるさまざまな疑問を、三好は一つ一つ解いていった。

各駅ごとの特徴は、ホーム正面の対向壁で表した。中央公会堂や東洋陶磁美術館が近い「なにわ橋」駅はテラコッタ、日銀がある「大江橋」は石、近代的なビル風景の「渡辺橋」駅はステンレス。キーステーションの「中之島」駅は、もちろん木だ。「レンガや石を使ったビルは、今ではレトロで重厚な味わいがありますが、建設当時は最

新の素材だったはず。古くて新しい不燃木材が、これから広がっていけばうれしいですよね。

もう一つ、三好が心を碎いたのが、「地下」を感じさせない工夫だった。地下1~2階を吹き抜けにして開放感を出し、集光器によって自然光を照射するなにわ橋駅。ダクトから取り込んだ地上の光をクラッシュガラスに当てて反射させる大江橋駅。4つの駅に注ぎ込まれた技術と工夫が、鉄道界に「中之島線以後」の潮流をつくっていくかもしれない。

【4時限目】 天満橋ルネサンスはなるか?

京阪電車は1910年に天満橋～五条間で開業し、1963年に淀屋橋まで延伸された。始発駅でなくなつた今も、天満橋は京阪電車にとって本社や関西私鉄最長の複々線区間(片側2車線)の起点がある要衝だ。そして今回、中之島線の分岐点としてまた新たに存在感を高めようとしている。

京阪シティモールの開業や、水上

バス「アクアライナー」八軒家浜船着場の整備もその一環だ。天満橋は地上と地下、つまり淀屋橋～中之島～京橋のトライアングル、そして川と鉄路の結節点となるのである。

始発駅ならではの天満橋の賑わいや「水都大阪」は再生するか。アクライナーのゆらぎに身を任せ、水上から中之島を愛でつつ、街の未来に思いを馳せたい。

一方、創刊1951年の大御所



堂島川の対岸から、水陸両用ターミナルとなる天満橋駅を望む。青空に映えるガラス張りの駅舎には、ルネサンスの予感がむんむん満ちているように見える。

【5時限目】 メディアは3000系をこう伝えた。

6月の3000系プレス発表を受け、7月に発売された鉄道誌がどのようにスポットを当てたのか。鉄ちゃん業界にて「御三家」と呼ばれる三誌を読み比べてみた。

まず、美しいカラー写真で定評のある「鉄道ファン」。プレス発表会での鉄道誌の撮影の白熱ぶりに編集部は舌を巻いたが、文句のつけようがない綴じ込みポスターを見て納得。今後掲載されるだろう名物記事「新車ガイド」へ

は舌を巻いたが、文句のつけようがない綴じ込みポスターを見て納得。今後掲載されるだろう名物記事「新車ガイド」へは舌を巻いたが、文句のつけよう

がない綴じ込みポスターを見て

納得。今後掲載されるだろう

名物記事「新車ガイド」へ

は舌を巻いたが、文句のつけよう

がない綴じ込みポスターを見て

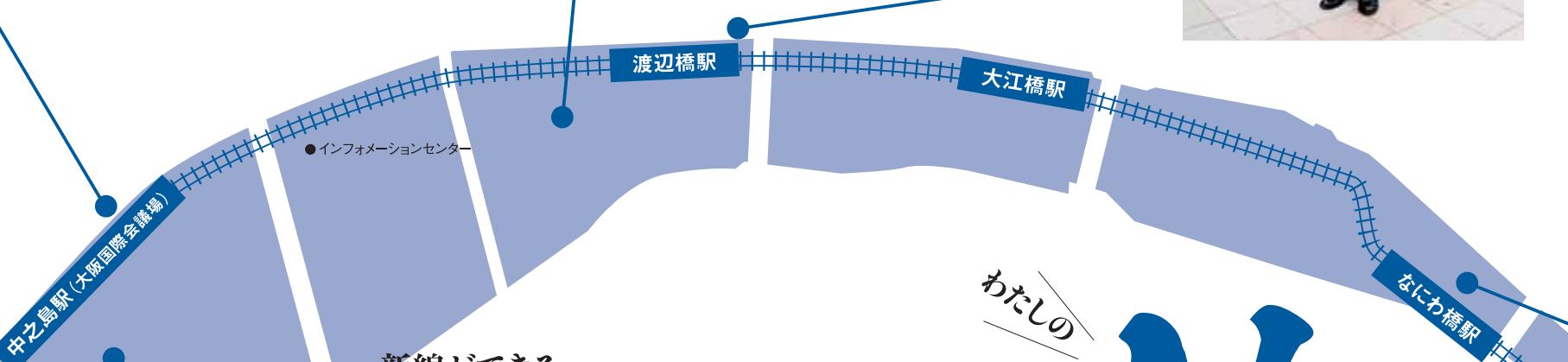
納得。今後掲載されるだろう



地域の人たちに 愛される現場に。

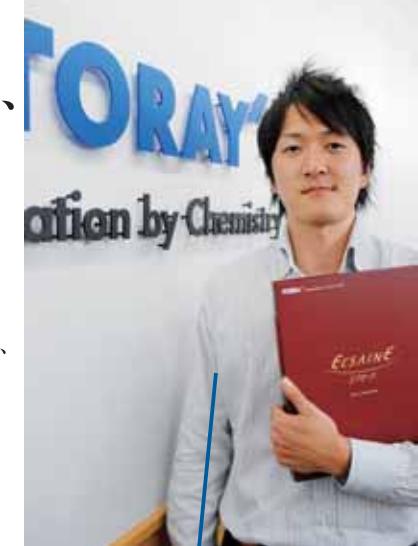
中之島線第1工区工事事務所 所長
鴻池組 豊川享次さん(58)

すぐ目の前にロイヤルホテルさんがあることもあって、気をつかったのは工事を地域の方々に「見せる」試みです。駅ができる過程を知ってもらうことで身近な存在になれるとの京阪電車さんの意向で、遊歩道の整備や、風車発電によるイルミネーションなどを行っています。若手作業員のアイデアで、パイプに水を通して滝のように流すといった演出も行いましたが、こんな取り組みは40年近くの現場経験の中でも初めてです。地域の方々に接するために、自治会のお月見にも参加しましたよ。作るだけでは技術屋としても面白くないので、ぜひ街として発展してほしいですね。



新線ができる
ワクワク感を伝えたい。
リーガロイヤルホテル 総支配人室
田中和也さん(26)

先月まで、ホテル内のコーヒーハウスやレストランで、開業にちなんだメニューをお出しする「カウントダウンフェア」を行いました。「京阪電車に乗るパフェ」にはお皿に電車の絵が描かれていたのですが、模型を買ってきてディテールにもこだわったんですよ。10月1日からは、第2弾としてホテル内の全19店舗に記念メニューが登場。さらに新たな宿泊プランやメリッサでのフェア、京阪電車に乗って出かける文化講座など、全館を挙げて盛り上げていきます。中之島線の開業は、いわばもう一つ新しい“玄関”できるようなもの。そのワクワク感をいろんな世代の方に楽しんでほしいんです。



会社の前を走る路線で、
妥協はできなかった。
東レ エクセース事業部
堀口琢生さん(28)

新車両3000系のシートには、当社の「エクセース」という生地が使われています。ファッションの高級素材として1970年のパリコレで注目され、その後、インテリア、スポーツ、自動車内装などに用途開拓されていきましたが、鉄道車両は初めて。しかもシート全面に使われることとなり、開発チームも張り切ってくれました。中之島線は大阪本社の目の前を走る路線。ホールド感や難燃性などの機能、そして鮮やかな発色も“3000系用”に追究しました。完成した車両に乗った時は、感激して鳥肌が立ちましたね(笑)。

ゆかりの地・
渡辺橋で新展開を。
プロントコーポレーション 店舗開発部
新谷 栄さん(49)

駅の開業と同時に、渡辺橋駅の地下1階にパール街ができるんですが、その中に【イルバール・ディブント】を出店します。朝7時から夜は11時まで、どんな時間でもお客様が好きに使ってもらえるような店になれば良いですね。チケッティという小皿料理やピッタなどは、イタリアのパールを50軒ほど回って勉強した自信作です。ここ渡辺橋は、親会社であるサントリーが古くから本社ビルを置く縁の地。そこで新しい業態を始められるとあって、この場所への思い入れは強いんです。



最難度の工事を
最速で仕上げる。
中之島新線北浜工事事務所 所長
大林組 池田恭二さん(49)

私たちの第5工区はなにわ橋駅の工事を担当しています。中之島線の中でも最も深い地下30mの深さがあるのですが、地下水の浸入を防ぐために約80mの地下連続壁を造る必要がありました。この壁だけで32,000m²の規模があり、24時間勤務で1年間かかりました。掘削を行う準備段階で1年です。大阪の市街地の土木工事としてはかなり難易度の高いものです。また、工期も遅れることなく、むしろ上回るペースで作業を進めました。一番深く掘る工区がリードすることで、全体のムードも高まったと思います。25年前、入社してすぐに鴨東線の延伸工事を担当しました。これで恩返しができた気がします。



わたしの プロジェクトN

中之島線開業に向けて奔走するのは京阪電車ばかりではない。
様々な形で中之島線に関わる人々の、
それぞれの「プロジェクトN」をうかがった。

取材・文／大迫 力(本誌)



この目で見よう「プロジェクトN」。

風の中のすばる～♪ なんてBGMが流れているわけではないが、中之島線の工事の様子を一覧できる場所があるのをご存じか。大阪大学中之島センターの西隣にある「インフォメーションセンター」では、実際の現場の写真や工事区画全体を表した模型など展示するほか、工事の概要をまとめたDVDも上映。まさに「プロジェクトN」をこの目で見られるスポットなのだ。開業後も年内いっぱいは継続予定。入室無料。☎06-6443-0036
9:00AM～4:30PM(入室) 無休

中之島への「回帰」現象

オフィスビルに交じつてタワーマンションがそびえる景色も見慣れたものになつてきた。「都心回帰」の流れは最初、利便性やステータスを求める高齢者や単身女性から始まつたが、最近では「通勤時間を短縮し、趣味の時間が多く持ちたい」という、いわゆるワークライフバランスを重視する幅広い層が多く移り住むようになっている。

なかでも、中之島界隈は注目すべきエリアだ。世代別の人口増減グラフを見ると、中之島内では30歳前後の若いワーカー世代が突出して増加し、さらに、中之島を取り囲む北・南・西部の各エリアでは5歳以下の人口が明らかに増えている。つまり、都心に若い層やファミリー世帯が増えていると考えられるのだ。

しかし、喜んでばかりもいられない。グラフをもう一度よく見ると、6~10歳の人口が減少している地域がある。小学校に上がるタイミングで人口が流出しているということだ。これは、都心の教育の質を映し出しているといえな

だつた。これが、2020年には10・7万人に増えると推計されている。マンション開発やオフィスビルの建設、ホールや美術館といった集客施設の建て替えが後押しする期待されているのだ。

こうした状況を受け、私たちの委員会は今年度、とくに中之島の西側に焦点を当て、ブランド戦略を展開している。旧川口居留地を訪ねたエリアウォーキングでは、これまであまり知られていないなかつた中之島周縁部の歴史を再発見した。

安治川と木津川に囲まれ、「水都」の様相が色濃い川口は、諸外国との条約締結によって明治元年に開港場となり、文明開化を象徴する居留地となつた。^{※3} 川口基督教会はいまなお当時の面影を残しているが、司祭のお話では、近隣にマンションが増えたことで、若い家族連れが日曜礼拝に来るようになり、デーツスポットとしても人気があまつているのだという。居留地時代からの文化を継承しつつ新しい世代を呼び込む、地域にとつて貴重な施設である。

また、教会から木津川を挟んだ向かいには、明治7年に大阪府庁舎が建設されたゆかりの地がある。現在は、府立現代美術センタの一の移転などを含め、芸術を軸にしたまち

いだろうか。また、オフィス街の夜は明かりが乏しく、歩く人も少ない。隣人とのコミュニケーションも行き届かないなどといった点も、日々の暮らしの心配事になる。

教育・衣・食・医療・文化など、中之島を「住む街」として充実させるには、まだまだ必要な要素は多い。

新たな文化を呼び込む

中之島線開業に向けて大阪地域振興調査会が行つた「中之島の人の動きに関する調査」によると、2007年現在、中之島の一日最大滞留者数は8・6万人。内訳は、居住750人▽業務5・4万人▽通学1200人▽集客2・3万人▽イベント82000人

中之島線開業で、島内移動が飛躍的に便利になる中之島。
それに合わせ、「住む」視点から新たな大阪の中心をつくろうと、研究を進めるグループがある。関西経済同友会「都心居住推進委員会」。キーワードは「都心回帰」と「再発見」だ。

「働く」から「住」へ?

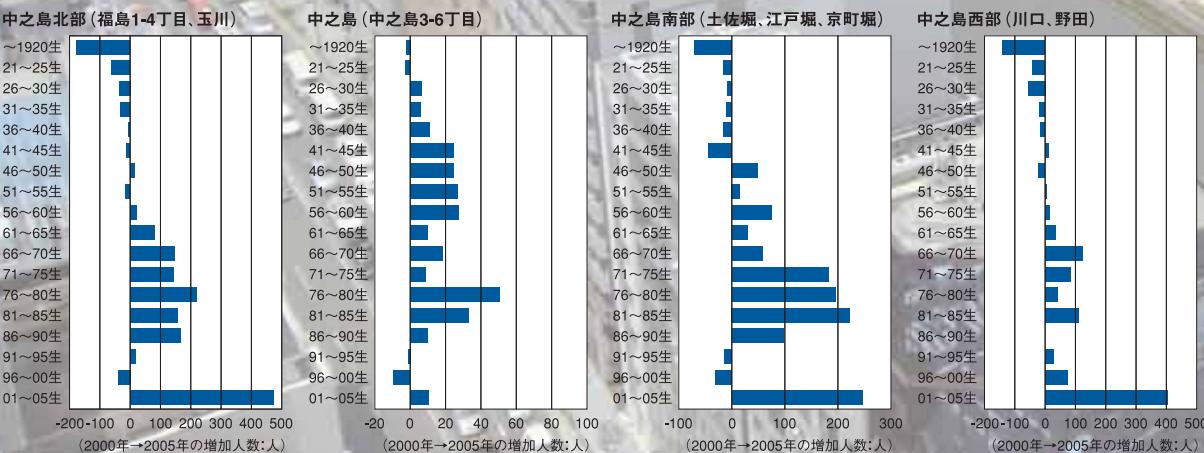
中村絢子
(日本政策投資銀行関西支店)

づくりが計画されている。

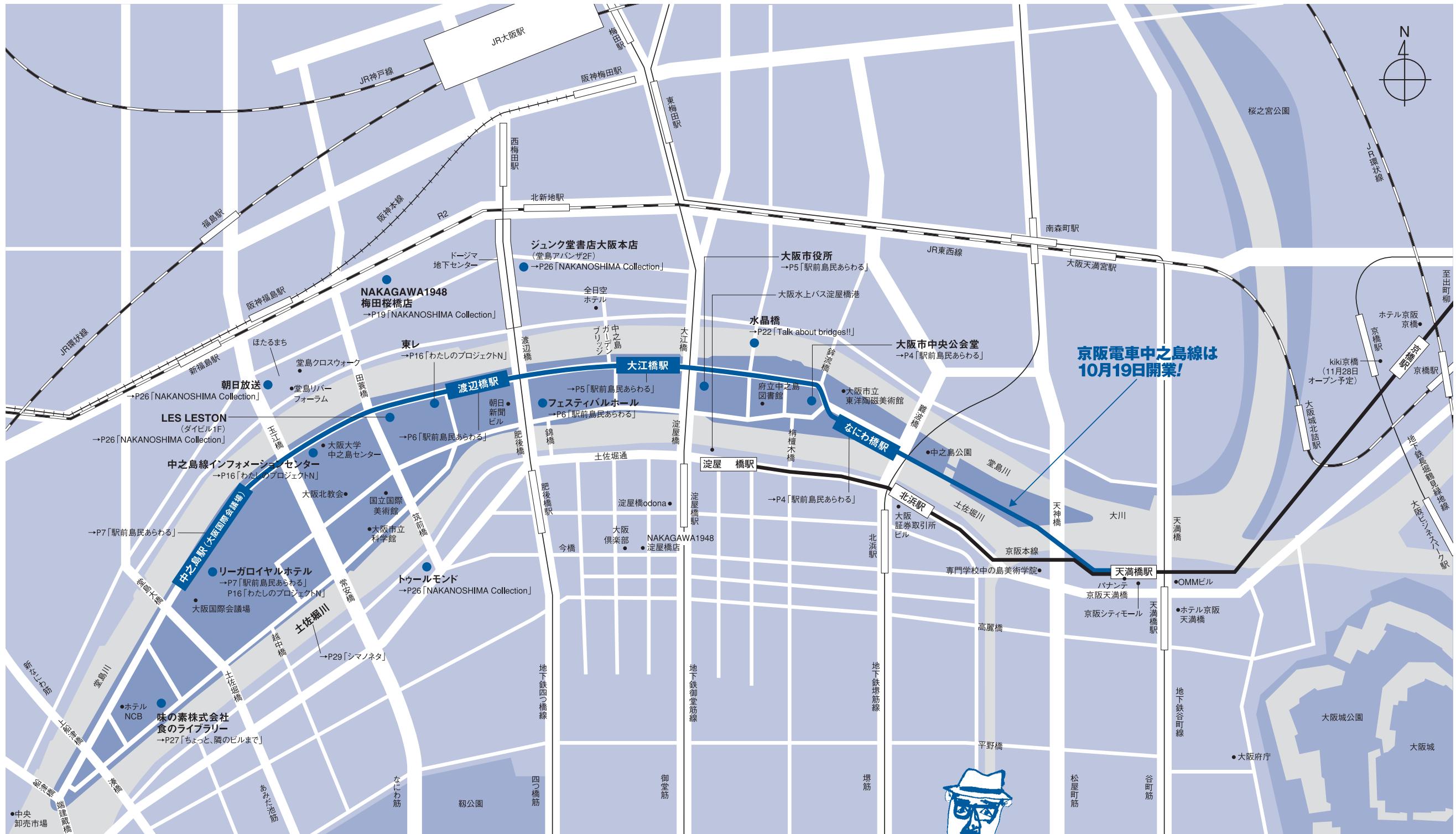
大阪を代表するエリアに

中之島界隈の利便性と豊かな歴史は、こゝうして新たな文化を呼び込む素地となつている。中之島線の開業はその勢いをさらに増し、これまで以上に活気ある地域となるポテンシャルを生むだろう。何よりも大切なのは、中之島で過ごす人たち全てが誇りを持ち、胸を張つて「中之島が好き」と言えるようなまことにすること。行政や地域住民、企業が互いにコミュニケーションを取り合い、協力して活性化策を模索していく先にこそ、大阪を代表するエリアとして、中之島が「再生」する可能性があるのだと思う。

◎世代別人口増減(日本政策投資銀行関西支店「都心回帰の真相」より)



なかむら・あやこ
日本政策投資銀行関西支店企画調査課に勤務し、淀屋橋のオフィスに通う「通い島民」。都心居住委では、委員長スタッフを務める。神戸に住み、京都で学び、大阪で働く「関西人三都物語」を体現してきたが、最近「住む街」としての大阪を考え始めている。



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



中谷ノボルのMr.グッドリバーを探せ!



ふりがな	よこた	てつや	ふりがな	おおさかしけんせきょく
氏名	横田 哲也さん	職業	大阪市建設局 道路部橋梁担当課長	どうろぶきょうりょうたんとうかちょう

昭和34年 大阪市に生まれる
昭和44年 長崎の西海橋の模型を作ったのをきっかけに、橋梁に興味を持つように
経歴 昭和54年 大学にて橋梁工学を学ぶ
昭和60年 大阪市土木局（現・建設局）に就職。此花大橋をはじめ、
多数の橋梁の計画・設計・施工・維持管理に携わり、現在に至る

「まるで橋の博覧会みたいでしょ」。WTCにあるオフィスから、眼下の景色を見てそう話すのは市職員の横田哲也さん。水の都というだけあって、大阪市役所には橋だけを担当する部署があり、20余名の精鋭たちが働いている。

大阪市内には現在、建設局が管理するだけでも763の橋がある。横田さんは、橋を架ける計画の立案から設計と工事監理、そして完成後の維持管理までも担う。橋を架ける技術では、大阪は世界トップレベルとも言われる。海外から頻繁に専門家が訪れ、時には市職員がアフリカのガーナへ派遣されたこともある。



横田さんイチ押しの此花大橋。
(写真提供：大阪市)

舟から見る本町橋はホンマにセクシーや。(中谷)



さらに、維持管理の面でも

最前線を走る。早期に近代化
が進んだ大阪の橋には古いも

のも多い。人に例えると、「中年と高齢者を多く抱える」状態だ。しかし“医療費”は限られている。そこで、治療が必要となる前に“予防”で医療費を下げ、長寿社会を実現しようというの

が近ごろのトレンドだ。大阪市はこの予防保全の考え方を、全国に先駆け採用してきた。ちなみに、マ

イフェイバリットな本町橋は今年95歳。この予防技術でカッコよく長生きしてほしい。

「橋は都市を支えているんです」。橋の裏側に引かれた水道管や電話線は、人々の生活を陰で支えている。

横田さんは家族旅行の先でも、ついでに橋を見に行ってしまうらしい。こうした熱い職員がいる大阪の橋は幸せだ。大阪

はいわば橋のメッカのような場所。街がまるごと「橋の博覧会状態」などと世界にアピールしていきたい。でもその前に、

もうちょっと地元民が橋を愛さないとね。せめて「自分の好きな橋ベスト3」は選んでおこう。よろしく!

なかたに・のばる 住宅リノベーション集団「アートアンドクラフト」代表。NPO水辺のまち再生プロジェクトの発起人でもあり、暮らしにも観光にももっと川を利用しようと呼びかける、自らも「グッドリバー」な熱血漢。

●質問その一
「仕事を楽しめないと」と、よく言われます。でも、仕事って楽しくできるものなんでしょうか？
今の仕事を辞めたいということではありません。自分の希望する職種に就いていたって、大変な作業や気が進まない場面はあります。要は、仕事なんだから、楽しかろうがしんどかろうが、割り切ってやるべきではないのか、という意味です。仏教の修行も、楽しいからやっているわけではありませんよね？ やらないといけないからやる、ではやっぱりダメなのでしょうか。
(広告営業・男・32歳)

●解答 仏教では、「身も心もなりきること」をひとつの理想と考えます。食べるときは全身全霊で食べることになります。寝るときは寝ることになります。歩くときは歩くことになります。なんだとそんな簡単なこと」ということです。「なんだ、そんな簡単なこと」と思ふかもしれません、これが意外と難しいのです。私たち、ついつい余計なことを考えたり気に病んだりしていますからね。仕事も「やらないといけないからやる」とシンプルに受け止められたら、すばらしいと思います。ある意味、それはとても幸せな状態なのかもしれません。というわけで、今回は「それでいいですよ」とお応えします。

でも、問題は「なかなかそういう時もある」ということでしょう。うまくいかない時に、「楽しさ」などと言いく出することになるのかも。仏教の手法としては「自己点検」と「他者観察」を日々実践して、「自己評価」と「他者評価」のズレがあまり大きくならないようにするというのが有効です。そこにキモがあるとお考えください。
●仏教用語の専用語
「吾唯足知」「われただなるをしる」
「われただ足るるを知る」と読み下します。仏教では、私たちの身体や精神は、自動的に整えない限り、放っておくと暴れると考えます。ときどき自分の身体と精神とのバランスについて自己点検しましょう。

●仏教用語の専用語
「吾唯足知」「われただなるをしる」

「われただ足るるを知る」と読み下します。仏教では、私たちの身体や精神は、自動的に整えない限り、放っておくと暴れると考えます。ときどき自分の身体と精神とのバランスについて自己点検しましょう。

●質問その二
私は今のところ特定の宗教を信仰していません。でも、他の国では宗教を信仰することは当たり前だし、同じ日本人でも、信仰している人はいます。この信じる人と信じない人の間にある違いつて一体何によって生まれるのでしょうか？
信じられる人・信じられない人の違いと、言つても良いのかもしれません。自分が気づいていないだけで、生まれていたりする場合もありますが、

●仏教用語の専用語
「聞即信」「もんそくしん」

仏教の話に耳を傾け、「知ること」「わかること」、それはそのまま信仰に至る道です。また、ときには中と島を歩く足を止めて、

「が聞こえてくるかも」。

（医療事務・女・28歳）

「イワシの頭も信心から」という言葉があります。なんでもいいから信じれば生きる力となります。なんでもいいから信じれば生きると、宗教は「信じる」「信じない」の単純な二者択一ではないことがあります。「信じる」のではなく、「感じる」宗教性だと思います。なんでもいいから見守る人、身の回りを觀察してみると、

信じる人と信じない人の線引きは、それほど明確ではありません。「宗教を信じる」というのは単に「〇〇教の信者になる」ということだけではありません。葬儀や法要といった宗教儀礼だって信仰形態に含まれますし、願い・祈り・感謝などの感性だって宗教心とつながっています。「信じる」のではなく、「感じる」宗教性だと思います。なんでもいいから信じれば生きると、

「イワシの頭も信心から」という言葉があります。なんでもいいから見守る人、身の回りをobservationしてみると、

今月の
テーマ【メガネ】

メガネをかけるとどうなるか？生真面目、かつシビい印象がする。まるで歴史溢れる中之島のようではないか。だから島民にはメガネが似合うのだ！

取材・文／青木雅幸 大迫力(共に本誌)



共同印刷株式会社
山田富士雄さん(58)

遠近両用レンズのものを新調しました。視界が一気に広がりましたよ。「インテリジェンスがメガネに負けてる」とパートナーには言われましたが(笑)。お洒落にはすごくうるさいんですよ。中之島には原稿を届けによく来ます。

いやあ、シビい。「あぶない刑事」時代の中条静夫を思い出しますね。印刷会社ということは、出版業界とのやり取りもあるでしょうし、お洒落に手を抜くと仕事に差し支えるかもしれません。そのあたりの気概を感じられます。シャンパンゴールドも、テンブルのデザインも、最近流行りのセレクト店はない、旧き佳き「メンズショップ」のお洒落感が漂っていますね。

ジュンク堂書店大阪本店
副店長
小笠原 準さん(37)

若い頃は酔っぱらってメガネを失くしたりもしたことありますが、これは3年使ってる愛用品です。売り場に出ることもあるので、レンズの汚れには気を遣います。

これはまたあっさりしてますね。しかし目元とのバランスを考えたら、少しめらうるので、インテリジェンスな感じが漂います。この方に本を選んでもらったら、自分も偏差値上がりそう。黒のタートル、お似合いになりますよ。関係ないけど。



汚れたレンズで本は見られません

[トゥール・モンド]
オーナーシェフ
高山龍浩さん(31)

油は飛ぶわ落とすわで、1年に1本くらいは買い換えます。イヤミのない程度にお洒落なものを選んでいます。お皿の中に一点集中しますから、知らない間に目・首・肩が疲れてます。

レンズの下部分だけフレームがないデザイン。優しいお顔立ちをキリッとする“スパイス”になっていますよ。タモリさんのサングラスが12時の代名詞であるように、「このメガネ=料理が旨い」と覚えてもらうのに役立つそうです。



料理人には“消耗品”ですかね



審査員／大平秀峰さん
[NAKAGAWA 1948 梅田桜橋店] 店長
老舗らしい風格と肩の力が抜けたフレンドリーサーを兼ね備えたテーラーにて、絶妙な採寸テクニックを誇る“ゴッドハンド”として知られる。[NAKAGAWA]と言えば淀屋橋WESTにも店舗があり、島民にもおなじみ。☎06-6348-5200

手始めに広げた『大阪ことば事典』(牧村史陽編)に、いきなり答えた。『米のこと』という隠語。米穀取引所のあつた堂島の略である。中之島ではなく、対岸の堂島。先物取引の發祥であり、大阪証券取引所のルーツともなった「堂島米会所」は、島民の誇るべき歴史である。

「長いこと、全国の年貢米が集まる場所やつたから、堂島＝米のイメージは広く定着してたんだでしょうな。昭和14年に廃止され、いまは知る人も少ないですが」とは、明治に創業した東大阪の米穀会社幹部。ただ、誰がどんな意図で「シマ」を使い始めたのか、な

つかは、あるうどん屋の大将厨房に向かって「きつね丁、シマ二丁」と叫ぶ、その「シマ」とは白ご飯の意味だが、これって中之島から来てるんじゃない？となるほど、昔は蔵屋敷が建ち並んでましたもんね：というわけで調査は始まった。

阪ことば事典』(牧村史陽編)に、いきなり答えた。『米のこと』という隠語。米穀取引所のあつた堂島の略である。中之島ではなく、対岸の堂島。先物取引の發祥であり、大阪証券取引所のルーツともなった「堂島米会所」は、島民の誇るべき歴史である。

「そこまでは分かりませんなあ」。ぜうどん屋にはいまも残っているのか、ぜうどん屋にはいまも残っているのか、ぜうどん屋にはいまも残っているのか、

「落語」の枕にも登場するということ

で、上方の噺や時代背景を研究

している夢うつ、氏の考察を仰ぐ。「船場あたりの商家の手代（使用人）は集金に回る際、うどん屋で手早くメシを済ませることが多かつたんです。注文の時もつい商売上の符丁や隠語を使い、それが店側にも広まつたんとちやいですか」。

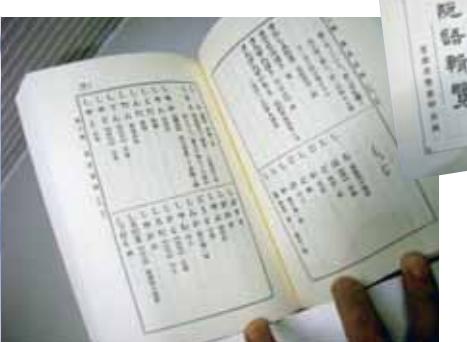
ならば…と、船場生まれで上方言葉に詳しい大阪天満宮文化研究所の近江晴子さんに訊いてみる。「もとは米の相場師の、ある種“粹”な業界用語やつたんと違いますやろか。市場関係者はとても羽振りが良くて、天神祭の宵宮に出る堂島米相場のだんじりは、それは豪奢やつたと聞いています」。

島の榮華を築いた旦那衆の粹コトバを、街場の店が受け継いだ。とりあえず、そういう結論になろうか。

うどん屋の「シマ＝米」は



昭和30年に建立された「堂島米会所」跡記念碑。台座裏には「任侠で然諾を重んずる市場人の氣風とともに堂島の名を天下に重からしめた」とある。



文献上の記録は、京都府警察部が、天皇警護の必要から編纂した「隠語輯覽」(大正4年)が最も古いらしい。



徳川慶喜、土佐堀川を逃げ下る。

上方講談師・旭堂南海の
シマノネタ 第三回

大河ドラマ『篤姫』が人気だ。これから終盤にかけては、15代将軍徳川慶喜との駆け引きが見ものになるであろう。その慶喜、ちょうど140年前（慶応4年）の正月を大坂城で迎えていた。倒幕軍（薩長軍）がいる京へ攻め上る準備を着々と進めていたのである。正月3日、「鳥羽・伏見の戦い」が始まった。慶喜率いる幕府軍は数の上で優るがやってくる。「我等はあくまでも戦北の報が届く。しかも、倒幕軍は錦の御旗を朝廷から下賜されたというのだ。薩長軍は官軍。慶喜は賊軍の長となってしまったのである。

そして、正月6日。表題に上げた場面がやってくる。「我等はあくまでも戦うのみである」と、部下には檄を飛ばしてしまったのである。

そこで、正月6日。表題に上げた場面がやってくる。「我等はあくまでも戦うのみである」と、部下には檄を飛ばしてしまったのである。

城門にては衛兵の咎むることもありやといたく気遣いたれど、御小姓なりと詐りたるに欺かれて、べつに恠しみもせざりしほまことに僥倖なりき

（『昔夢会筆記－徳川慶喜公回想談－』より抜粋）

自身は夜になるのを待ち、僅かの供のみを連れて、ひそかに大坂城を抜け出したのである。なんと、小姓に変装をして、内緒で、家来たちを見捨てての逃亡である。

慶喜一行は、城外に出ると、まっすぐ向かったのが八軒家の船着場。かねて用意していたものか、停泊中の小舟に乗り込んだ。戦が始まっているので、中之島も船場も軒並み雨戸を閉め、家人は息を殺し、イザとなればいつでも家財を持ち出せるよう準備も整え、耳を澄ましていたに違いない。

そんな中、日付が変わろうとする頃、慶喜は、天神橋、難波橋の下を西へ、土佐堀川を逃げた。安治川から大坂湾へ出て、軍艦に拾われたのである。

江戸時代の終焉と言つても良いこの行動。八軒家がココにも絡んでいたのである。

きょくどう・なんかい
1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前（1989年）に三代目旭堂南陵に弟子入り。1998年大阪市より「咲くやこの花賞」受賞。得意ネタに『太閤記』『難波戦記』浪花侠客伝『天満宮靈験記』など。

ちよと、隣のビルまで。

取材・文／松本創（本誌）

第3回 食のライブラリー@味の素グループ大阪ビル

なにわの食卓は島の西端から豊かになる。

書架の間を渡り歩けば、食をめぐるちょっとした知の旅だ。古今東西の食文化史や食事作法書、栄養学に食育指南、レシピやグルメ本、飲酒文学、白書・統計、映像資料まで、その数16,300点。

昆布だから成分を抽出し、社名にもなった調味料の発明から100年。味の素大阪支社内にある「食のライブラリー」は、食文化の発展に力を注いできた同社の姿勢の表れだ。「うちは“だし屋”」。単体では成立しない商品ですから、和洋中さまざまな料理を紹介し、普及を図ってきたんです」と、担当の中矢成彦さん。

開設は、支社が天満から中之島に移った5年前。東京にある先行施設は「世界の食」をテーマとするが、大阪では「なにわの食文化」の棚を充実させた。『大阪昆布の80年』『黒門市場史』『なにわの味師24人』…。奥深いというか、マニアックというか。『堂島米市場史』など、島民垂涎（か？）の資料も揃う。

対岸の福島に中央卸売市場があるため、仕入れを終えた料理人が素材や調理法の研究に立ち寄るという。ほかにも、パンやケーキの職人、栄養士、レポートに追われる学生たち。

「味の素」は、昆布だし文化の大坂と古くから相性が良いそうだ。なにわの食卓を豊かにするエキスが、島の西端からじわり滲み出ているのである。



司書が常駐し、書架の案内や資料探しを手伝ってくれる。

味の素株式会社 食のライブラリー

同社発行のPR誌や古書など、貴重資料も閲覧可。東京の蔵書も検索・利用できる。入館は1階受付で申し込む。無料。貸し出しは登録手数料100円と本人確認が必要。●北区中之島6-2-57 2F 10:00AM~5:00PM 土・日・祝休



大正・昭和期の商品パッケージや外国での広告、CMソングのレコードなど同社関連品（写真下）のほか、大阪の喫茶店マッチラベル（写真上）や昔の広告である引き札（写真中）のコレクションも。



トウミニン月報

2008年10月1日発行

中大90歳おめでとう！大阪歴史博物館で中央公会堂展

赤煉瓦と御影石の二軒のやつ、中島のシンボル大阪市中央公会堂の90周年を祝う盛り上がりは、島だけにとどまらず大阪城近くにも広がっていました。

大阪歴史博物館（中央区大手前）ではこのシップ建築の魅力をたっぷりと伝える特集展示を開催。寄贈者・岩本栄之助の物語はじめ、設計コンペや建築事の様子、3階に描かれた天井画と壁画の下絵など公会堂の知られざる姿が一挙公開される。中でも見どころは、13人の有名建築家から出された設計コンペ案。当時の一流建築家たちが競い合ったデザイン画の数々は、島民なら見ておいて損はない。「知ってる？」実は公会堂ってな…などと小粋なうんちくを披露したいものである。（若狭健作・本誌）



見事に1席を勝ち取った、当時29歳の建築家・岡田信一郎の提案図。



よつと/or ビルマニアの世界へ

「もう」貴方は立派な「ビルマニア」。戦後復興から高度成長期にかけて建てられたビルの魅力を語り合うイベ

島の対岸に建つNTT土佐堀ビル。

島の水辺は年中アツい。
大阪が「水の都」といわれる理由をもつとも身近に、日常風景の中に感じられるのが中之島だ。しかし、なぜ大阪が水の都となつたのか、そして、なぜ中之島がその中心たり得たのか、水に閉まれた島を歩き、あらためて考えてみよう。

編集・発行人／江弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 細木武雄
(株式会社 地域環境計画研究所)
松本創 大迫力(編集集団140B)
〒530-6591
大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル140B
Tel.06-6445-2105 Fax.06-6445-2106
制作進行／堀西 賢 (ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

配布にご協力いただける方を募集しております!

(島外の方でも大歓迎!)

配布協力／京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋／ブックファースト梅田店／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／リプロ 梅田阪神店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／福家書店 淀屋橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 天満橋店／アバンティBC OMMビル店／紀伊國屋書店 京橋店／その他、取材協力先



お客様、みんな
持つて帰つてくれまっせ



「川の駅」として利用できる場所には、このマークがある。

(小田切聰) 06-6944-6323まで。

ント「BMC（ビルマニアカフェ）」が10月11日、12日に開かれる。南堀江にある西谷ビル会場に、2日間限定のカフェをオープンするほか、ビル手ぬぐい、ビル絵はがきなどといった限定グッズの限定販売や、大阪市内の戦後ビルを紹介するスライドショー…まさにマニア垂涎の内容。12日のトーク＆ライブには小誌で連載する中谷ノボル氏も参戦予定だ。島内でも次々と姿を消しつつあるビルマニアが恋しい方はぜひ。(若狭健作・本誌)

置し、水辺ライフをもっと楽しんでもらおう!」という楽しげな企画。今回は10月4日～19日という期間限

定の社会実験ながらも、八軒家浜船着場や淀屋橋 odonona、ほたるまち港などが「川の駅」になる。各駅では、川のことや周辺の街についての案内を聞けたり、トイレを借りることもできるとのこと。大阪の「川の駅」というわけだから、もちろん中之島がメインステージとなつてくる。そうなれば島民としても、目が離せない。詳しくは大阪商工会議所

発進! プロ「川の駅」プロジェクト



松岡壽画『ミネルヴァとメルクリウス』(大阪市立近代美術館建設準備室蔵)

